デジタル版
2026年
01月115日号
Vol. 193

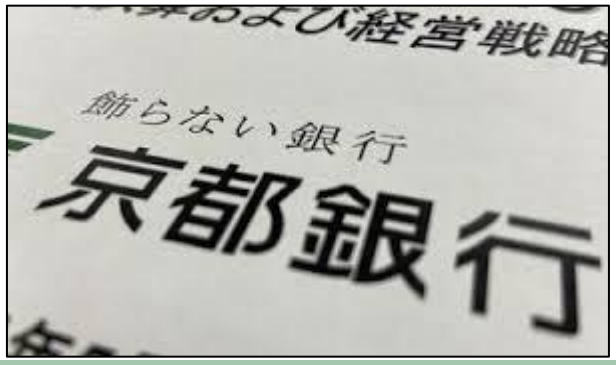
成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

京都企業にもモノ言う株主が進出！

京都の大企業にもモノ言う株主（アクティビスト）が大きく進出している。ほとんどが海外の大手投資ファンドだ。相当の割合の株式を所有し、上場企業に多くの注文をつける事態になっている。利益の還元で株式への配当の増額を要求したり、不採算事業の速やかな整理、取締役陣への顔ぶれの変更など、経営への圧力を強めている。今後、このような株主とどう向き合い、企業価値を高められるか。新しい局面を迎えている。

＜解説＞排ガス分析装置で有名な堀場製作所の10%近くの株式を、香港系投資ファンドのオアシス・アセットマネジメントが取得したことが大量保有報告書で発表された。途端に市中の株式は高騰し、一時6%近く株価が上昇した。オアシスが配当増額などの株主還元を要求するだろうという見立てが先行した。オアシス・アセットマネジメントは、滋賀県に本社があるエレベーターメーカーのフジテックに対しても、以前からもの言う株主として経営陣の多くのリクエストを要求してきた。京セラに対しても今年の5月の株主総会で注文をつけ、中核的な事業でない分野からの撤退を要求した。その結果、京セラは11月に900億円を投じて買収したホームセンター運営のアメリカ子会社を売却すると発表した。ねらいはまだ明確ではないが、今後成長を期待できる半導体分野への投資を促進するよう要請する可能性がある。ワコール、宝ホールディングスにも、別の投資会社が約10%の株式を取得し、筆頭株主となった。具体的な要求はまだ、今のところないが、経営陣には緊張感が高まる。特に、ワコールは本業のブラジャー事業が低迷し、市内南区のビルを売却し不動産の整理を行っている最中だ。京都銀行の持株親会社である京都ファイナンシャルグループにも、イギリスの投資ファンド会社が約6%以上の株式を取得し、特別配当を要求した。株主総会では否決されたが、今までにない動きが出ている。京都では



珍しい動きだが、大手企業ではこのような投資ファンドが外部大株主として、経営にモノを言う動きは近年活発になっている。昨今はこの京都企業の動きと同様に、外部投資ファンド株主が経営陣の人事や事業計画、配当政策などに多くの注文を付ける動きが顕著になっている。いい意味での緊張感を醸成している。本来、企業は誰のものかという根源的な命題への答えが一様ではないとの同じで、高配当だけをすればいいというものでもない。今後、これらの外部投資ファンドの圧力は強まる傾向になるだろう。

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104　京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611　FAX:075-366-6100　info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.